

令和7年度

第3回 市政モニターアンケート報告書

新居浜市企画部秘書課

1 アンケートの概要

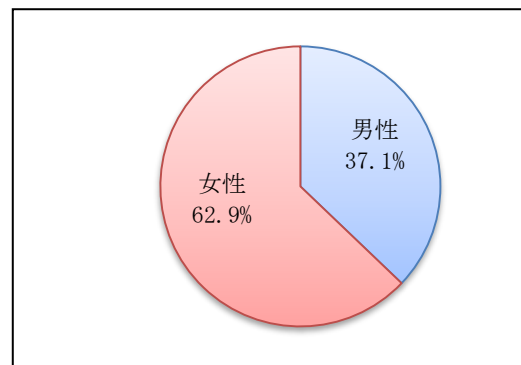
調査対象者	令和7年度 市政モニター 175人
調査期間	令和7年12月1日（月）～令和7年12月15日（月）
調査方法	郵送またはインターネット
テーマ	⑥ 新居浜市の広聴活動について
回答率	

テーマ	モニター数（人）	回答者数（人）	回答率
⑥	175	164	93.7%

2 市政モニター内訳（※令和7年12月1日時点）

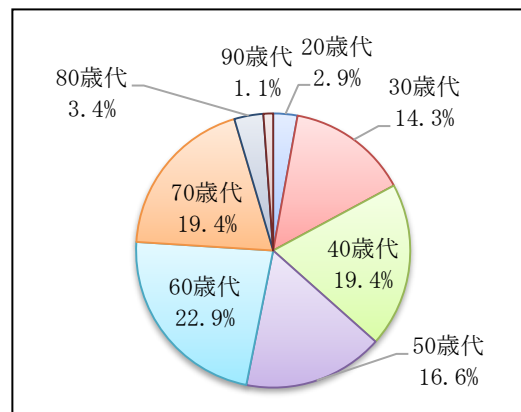
＜性別＞ （単位：人）

男性	65 (37.1%)
女性	110 (62.9%)
合計	175 (100.0%)



＜年代別＞ （単位：人）

	男性	女性	合計
20歳代	2	3	5 (2.9%)
30歳代	8	17	25 (14.3%)
40歳代	9	25	34 (19.4%)
50歳代	7	22	29 (16.6%)
60歳代	15	25	40 (22.9%)
70歳代	18	16	34 (19.4%)
80歳代	4	2	6 (3.4%)
90歳代	2	0	2 (1.1%)

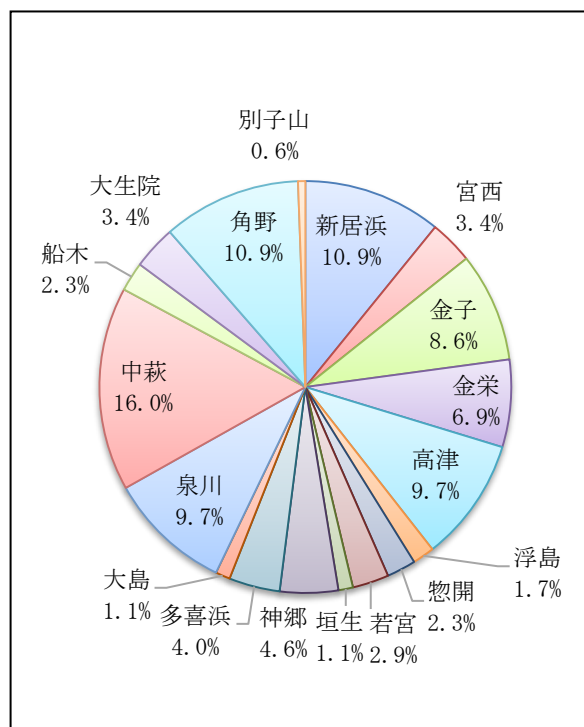


※年齢は令和7年4月1日時点

＜居住地域別＞

(単位：人)

	男性	女性	合計
新居浜	8	11	19 (10.9%)
宮西	1	5	6 (3.4%)
金子	7	8	15 (8.6%)
金栄	0	12	12 (6.9%)
高津	10	7	17 (9.7%)
浮島	3	0	3 (1.7%)
惣開	1	3	4 (2.3%)
若宮	1	4	5 (2.9%)
垣生	1	1	2 (1.1%)
神郷	5	3	8 (4.6%)
多喜浜	2	5	7 (4.0%)
大島	1	1	2 (1.1%)
泉川	6	11	17 (9.7%)
中萩	10	18	28 (16.0%)
船木	1	3	4 (2.3%)
大生院	4	2	6 (3.4%)
角野	3	16	19 (10.9%)
別子山	1	0	1 (0.6%)



＜回答方法 種別＞

(単位：人)

郵送モニター	55 (31.4%)
Eメールモニター	120 (68.6%)
合計	175 (100.0%)

＜選任方法 種別＞

(単位：人)

公民館推薦	45 (25.4%)
公募	130 (74.6%)
合計	175 (100.0%)

※数値は、単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の合計は一致しない場合があります。

3 調査結果

テーマ⑥ 新居浜市の広聴活動について

【調査趣旨】

新居浜市では、市長への手紙やメール、市政モニター制度などを通じて、広く市民の皆さんのご意見やご提案（市民の声）をお聞きし、市政への反映を図っています。

今回のアンケートでは、これらの広聴活動について、市民の皆さんの認知度やニーズ等をお聞きし、今後よりわかりやすく身近な広聴活動を進めていくために活用していきたいと考えています。

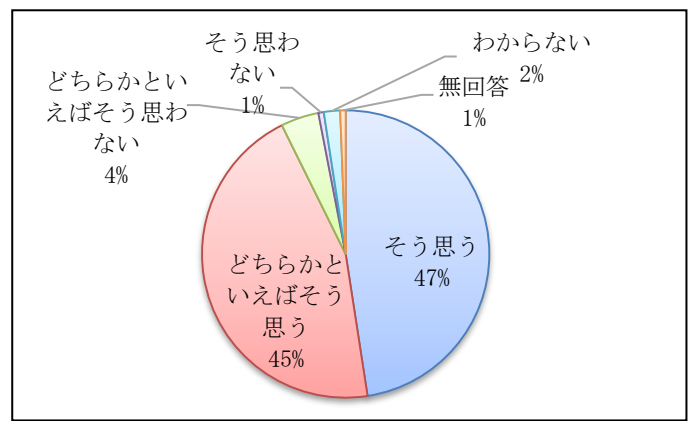
（秘書課）

（※問1はモニター属性特定のための設問であり、省略）

問2. 市政モニターの活動を通じて、市政に対する理解や関心が高くなったと思いますか。

（1つ選択）

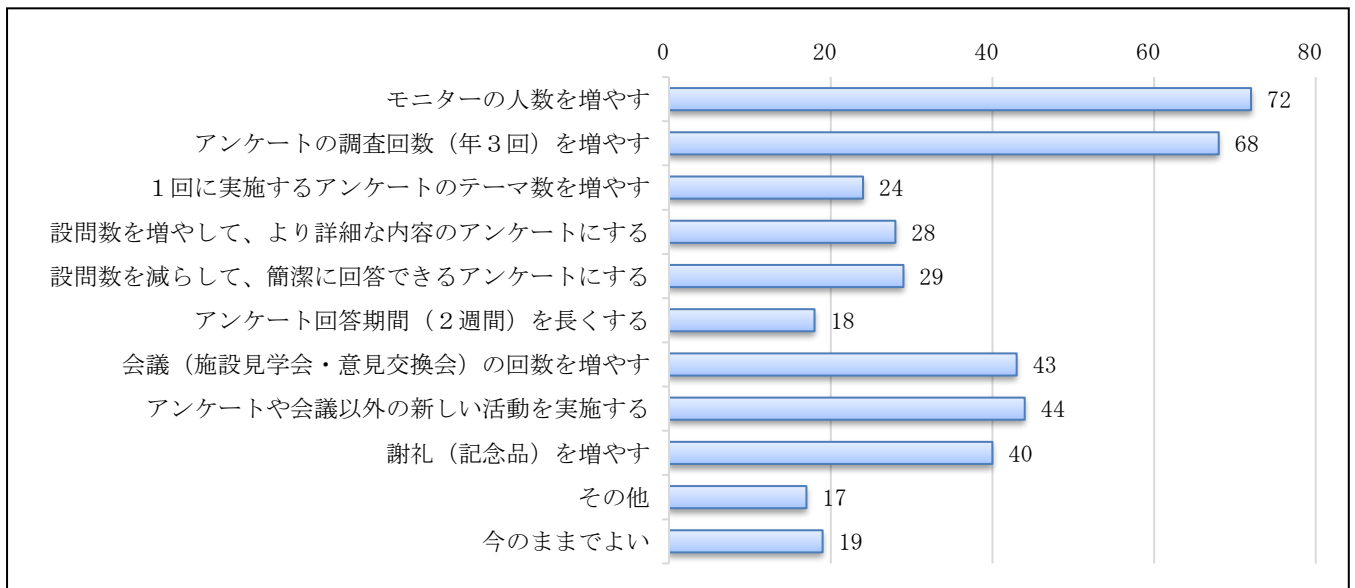
1. そう思う	78 人
2. どちらかといえばそう思う	74 人
3. どちらかといえばそう思わない	7 人
4. そう思わない	1 人
5. わからない	3 人
無回答	1 人



「1. そう思う」（47％）と答えた方が最も多く、次いで「2. どちらかといえばそう思う」（45％）、「3. どちらかといえばそう思わない」（4％）、「5. わからない」（2％）、「4. そう思わない」（1％）の順となっています。

問3. 市政モニター制度は、市民の声を市政に反映させるとともに、市民の市政への関心を高めることを目的として実施しています。さらに充実した制度にするために、どのような工夫や改善が必要だと思いますか。（複数選択）

1. モニターの人数を増やす	72 人
2. アンケートの調査回数（年3回）を増やす	68 人
3. 1回に実施するアンケートのテーマ数を増やす	24 人
4. 設問数を増やして、より詳細な内容のアンケートにする	28 人
5. 設問数を減らして、簡潔に回答できるアンケートにする	29 人
6. アンケート回答期間（2週間）を長くする	18 人
7. 会議（施設見学会・意見交換会）の回数を増やす	43 人
8. アンケートや会議以外の新しい活動を実施する	44 人
9. 謝礼（記念品）を増やす	40 人
10. その他	17 人
11. 今のままでよい	19 人



「1. モニターの人数を増やす」（72人）、「2. アンケートの調査回数（年3回）を増やす」（68人）、
「8. アンケートや会議以外の新しい活動を実施する」（44人）などが、市政モニター制度をさらに充実させるための工夫や改善点として多く挙げられています。

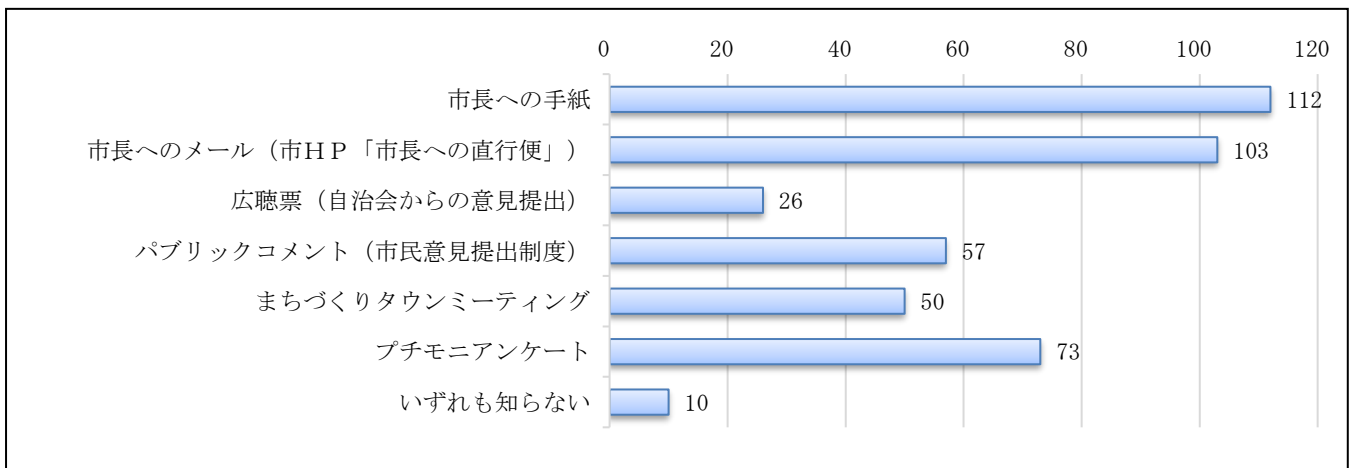
問4. 問3で「10. その他」と答えた方にお伺いします。市政モニター制度をさらに充実させるために、必要だと思う工夫や改善点を教えてください。（自由記入）

回答ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

- ・市政モニター会議（意見交換会）に参加したいが、平日は仕事の都合で参加が難しいため、年に一度でもよいので土曜・日曜開催を検討してほしい。
- ・モニターの人数を固定せず、市役所ロビーでパソコンを使用したアンケート参加や、アプリ（prairie等）を活用したアンケート参加を可能とし、謝礼としてポイント（あかがねポイント等）を付与する仕組みを導入してほしい。
- ・市がモニターの意見を必要とするのであれば、足の不自由な方が公共交通機関を利用して参加している現状にも配慮してほしい。
- ・年齢別に幅広い世代の意見が聞ける場となるよう工夫してほしい。特に若年層の参加が少ないと感じている。
- ・現地参加型のイベントだけでなく、オンライン会議等を活用した、気軽に参加できる機会を増やしてほしい。
- ・個人だけでなく、自治会、PTA、各種団体（スポーツ団体、太鼓台関係等）も含めて、総合的に意見を収集・考慮してほしい。
- ・「いつでも書ける何でも意見コーナー」を設け、対象カテゴリ、気づいた場面・シーン、改善アイデア、家族構成など分析しやすい情報も併せて記入してもらうことで、ニーズや優先順位を把握しやすくする工夫が必要。
- ・毎年似たようなテーマが多く、市政にどの程度影響のあるテーマなのか、またアンケート結果がどの程度反映されているのか分かりにくい。
- ・市民であれば誰でも回答できるような、より開かれたモニター制度があってもよいと思う。

問５．市では、市政モニター制度以外にも、市民の声を市政に反映させるための広聴活動を実施しています。次の中で、あなたが知っているものを教えてください。（複数選択）

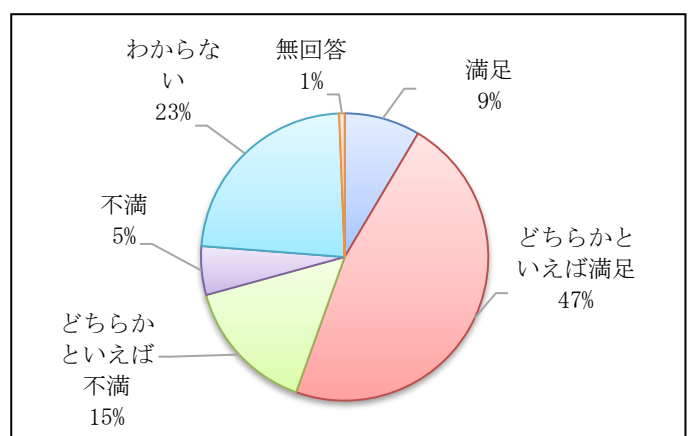
１．市長への手紙	112 人
２．市長へのメール（市HP「市長への直行便」）	103 人
３．広聴票（自治会からの意見提出）	26 人
４．パブリックコメント（市民意見提出制度）	57 人
５．まちづくりタウンミーティング	50 人
６．プチモニアンケート	73 人
７．いずれも知らない	10 人



「１．市長への手紙」（112 人）、「２．市長へのメール（市HP「市長への直行便」）」（103 人）などが、市政モニター制度以外に知っている広聴活動として多く挙げられています。

問６．現在の新居浜市の広聴活動についてどう思いますか。（１つ選択）

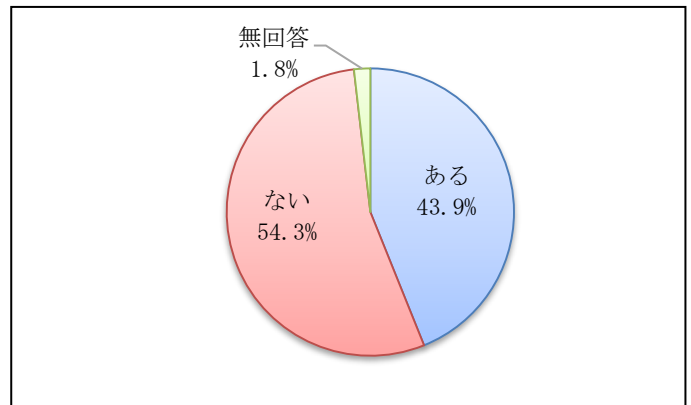
１．満足	14 人
２．どちらかといえば満足	77 人
３．どちらかといえば不満	25 人
４．不満	9 人
５．わからない	38 人
無回答	1 人



「２．どちらかといえば満足」（47%）と答えた方が最も多く、次いで「５．わからない」（23%）、「３．どちらかといえば不満」（15%）、「１．満足」（9%）、「４．不満」（5%）の順となっています。

問 7. プチモニアンケートについてお伺いします。市政について WEB 上で答える簡単なアンケートを 市では実施しています。プチモニアンケートにお答えいただいたことはありますか。(1つ選択)

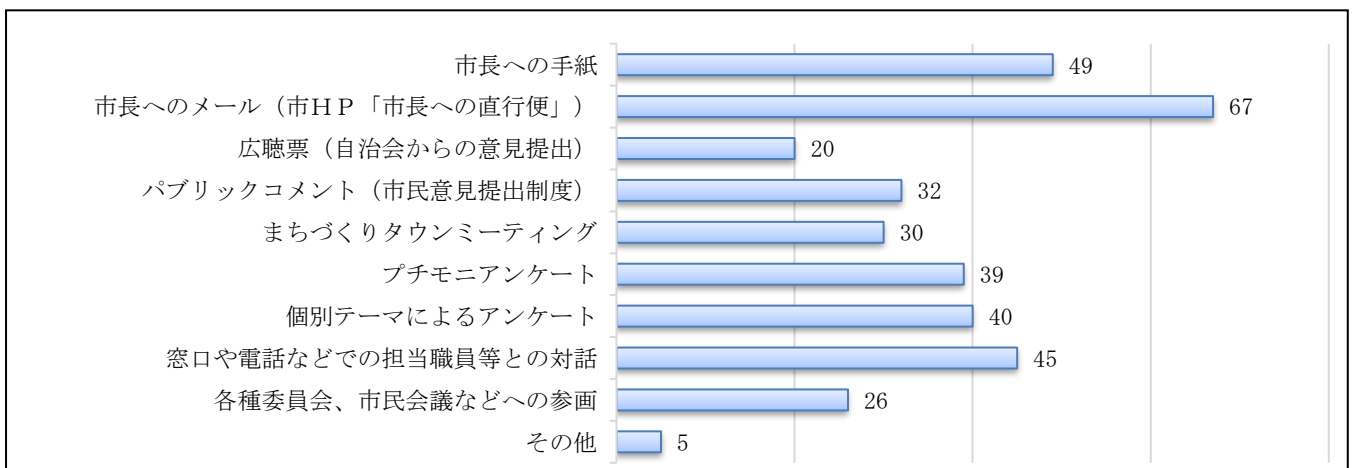
1. ある	72 人
2. ない	89 人
無回答	3 人
合 計	164 人



「2. ない」(54.3%) と答えた方と、「1. ある」(43.9%) と答えた方が概ね半分ずつの結果となり、若干答えたことのない方が多い結果となりました。

問 8. 市政にあなたの意見を反映させたいとき、あなたが一番意見を伝えやすいと思う方法はどれですか？(複数選択)

1. 市長への手紙	49 人
2. 市長へのメール (市HP「市長への直行便」)	67 人
3. 広聴票 (自治会からの意見提出)	20 人
4. パブリックコメント (市民意見提出制度)	32 人
5. まちづくりタウンミーティング	30 人
6. プチモニアンケート	39 人
7. 個別テーマによるアンケート	40 人
8. 窓口や電話などでの担当職員等との対話	45 人
9. 各種委員会、市民会議などへの参画	26 人
10. その他	5 人

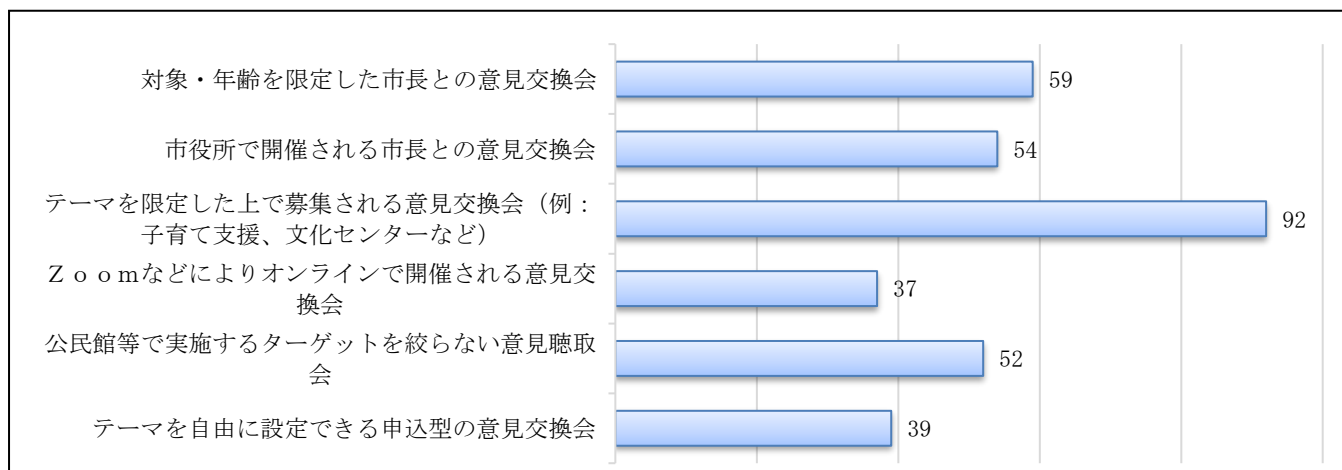


市に対して最も意見を伝えやすいと選択されたのは「2. 市長へのメール (市HP「市長への直行便」)」

(67人)、で、その他「1. 市長への手紙」(49人)、「8. 窓口や電話などでの担当職員等との対話」(45人)、などが、多く挙げられています。

問9. より市民の方に市政に関心を持っていただき、市民と行政の対話によるまちづくりを進めることを目的として、新たな広聴制度に向けて検討を進めているところです。対話型の広聴としてあなたが興味をもてるものは次のうちどれですか？(複数選択)

1. 対象・年齢を限定した市長との意見交換会	59人
2. 市役所で開催される市長との意見交換会	54人
3. テーマを限定した上で募集される意見交換会 (例：子育て支援、文化センターなど)	92人
4. Z o o mなどによりオンラインで開催される意見交換会	37人
5. 公民館等で実施するターゲットを絞らない意見聴取会	52人
6. テーマを自由に設定できる申込型の意見交換会	39人



興味を持てる対話型広聴として最も多く挙げられたものが「3. テーマを限定した上で募集される意見交換会（例：子育て支援、文化センターなど）」(92人)、で、その他「1. 対象・年齢を限定した市長との意見交換会」(59人)などが多く挙げられています。

問10. その他、新居浜市の広聴活動について、ご意見があればお聞かせください。
(自由記入)

たくさんの回答をいただき、ありがとうございました。本報告では回答の一部を紹介します。

1. 広聴（市民の声を聴く仕組み）に関する意見

- ・フジ、イオン、新居浜駅など人の集まる場所に、「市長への手紙」専用ポストを設置してほしい。
- ・謝礼としてスーパーの商品券等を加えることも検討してほしい。
- ・幼稚園や今後閉校となる可能性のある学校施設などを活用し、意見交換の場として活用してはどうか。

- ・過去にパブリックコメントへ意見を提出したが、設問に対する的確な回答が得られず、「広聴した」という形式だけに感じられた。対話型で、きちんと回答が得られる広聴制度を望む。
- ・税込増加や観光収入増加などテーマを設定した「成功報酬型・提案型アンケート」を実施してはどうか。
- ・「意見を言う＝文句を言う」というイメージもあり、意見が出にくいのではないかと。知らない人の前で発言するのは難しいが、少人数での気軽な意見交換であれば話しやすいと思う。
- ・イオンやあかがねミュージアムなど、もともと人が集まる場所でイベント形式の広聴を行えば、通りがかりで意見を出しやすい。
- ・市が聞きたい内容をテーマに沿ってアンケート化し、アンケート回答後、1週間程度あけて意見交換会を行うことで、考えを深めた上で参加できると思う。
- ・広聴活動に参加する際のイメージや、参加後にどうなるのかが分かりにくい。より具体的でイメージしやすい説明があると参加しやすい。
- ・広聴活動が活発になることは良いが、意見の取りまとめが大変になることが懸念される。テーマを絞り、自治会単位などで整理して提出する仕組みも必要ではないか。
- ・テーマあり・なし双方の意見交換の場を、年に複数回設けると多様な意見交換ができる。
- ・年齢制限を設けることで、自分とは異なる視点に気づく機会を失う可能性もある。
- ・Zoomによる意見交換は有効だが、ネットに不慣れな世代への配慮として、使い方教室の開催も検討してほしい。将来的には、交流促進や孤独死対策などにもつながる可能性がある。
- ・以前のプチモニアンケートのように、回答者へのインセンティブがあると参加者は増えると思う。

2. 広報（情報発信・周知）に関する意見

- ・あかがね劇団など、地域から発信している団体・人材をもっと紹介してほしい。
- ・今後も多様なアーティスト（例：新浜レオン、岩崎宏美・良美など）を招いてほしい。
- ・市のInstagram動画撮影に参加したが、非常に楽しく、また参加したいと感じた。
- ・新居浜市のホームページを実際に見ている市民の割合はどの程度か。少ないのであれば、改めて周知を行ってはどうか。
- ・財政状況や今後の大規模事業、重要施策について、関係部局が直接市民に説明する機会があれば理解が深まると思う（ドキュメンタリー映画「ボストン市庁舎」のようなイメージ）。
- ・首長が前面に出る広報は、実績や具体的な戦略が伴ってこそ意味がある。中身のない広報では効果が薄い。市職員が熱意を持って直接伝える場も重要ではないか。市民はこの街が暮らしやすく、誇れる街になることを望んでおり、一緒に考えることを厭わない人も多い。市民を巻き込んだ広報が最も力を持つと感じる。
- ・広報車の放送は内容が聞き取りにくく、何を伝えているのか分からないことが多い。行方不明者の捜索など重要な内容を聞き逃さないよう、メール配信など他の手段との併用を検討してほしい。
- ・南海放送で放送された「DonDonにいはま」は、映像として記憶に残り、市の取組や考え方が理解しやすかった。

3. その他（あかがねポイント）に関する意見

- ・11月1日から実施しているあかがねポイント20%還元キャンペーンについて、事務局と市担当者間の情報共有が十分でない印象を受けた。新規利用者が増える施策が見えないままでは、加盟店・利用者双方にとって魅力が薄れる。加盟店や市民の声を市担当者へつなぐ窓口が必要と感じた。
- ・市役所であかがねポイントのチャージができるようにしてほしい。地下売店や食堂でも使用できると

ありがたい。

- ・アプリ変更後、利用者が減っているように感じる。

<まとめ>

このたびのアンケートには、164名の皆様から貴重なご意見をお寄せいただきました。ご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

本アンケートでは、新居浜市が実施している広聴活動について、市政モニターの皆様の認知度や評価、今後のあり方に関するご意見をお伺いしました。その結果、市政モニターとしての活動を通じて、市政に対する理解や関心が「高まった」「どちらかといえば高まった」と感じている方が大多数を占めており、市政モニター制度が市政への関心喚起に一定の役割を果たしていることが確認されました。

一方で、制度のさらなる充実に向けては、「モニターの人数を増やす」「アンケートの調査回数を増やす」といった量的拡充に関する意見に加え、「アンケートや会議以外の新しい活動を実施してほしい」「テーマを限定した意見交換会を増やしてほしい」など、参加方法や対話の在り方に工夫を求める声が多く寄せられました。また、若年層の参加が少ないとの指摘や、オンラインを活用した参加しやすい仕組みを望む意見も見られました。今年度実施予定の意見交換会ではZoomでのオンライン参加も可として新たに取り組みを始めました。今年は利用希望はありませんでしたが、よりわかりやすく、参加しやすい形でのオンライン手法の活用を図っていきたいと思います。

市政モニター制度以外の広聴活動については、「市長への手紙」や「市長へのメール（市ホームページ『市長への直行便』）」の認知度が高く、特に市長へのメールは「意見を伝えやすい方法」として最も多く選ばれました。時間や場所にとらわれず意見を伝えられる手段へのニーズは依然として高く、今後もインターネットを活用した広聴の重要性がうかがえます。なお、市政モニターさんからご提案いただいたイオン等への市長への手紙ボックス設置につきましては、職員による毎日の回収が難しいためボックス設置は困難ですが、お近くのポストに投函いただければ料金受取人払郵便で無料にて郵送提出していただける用紙を配置いたしました。

また、対話型の広聴に関しては、「テーマを限定した上で募集する意見交換会」に高い関心が寄せられ、具体的なテーマ設定や目的を明確にした場が、市民にとって参加しやすいものであることが示されました。その一方で、意見がどのように整理され、市政に反映されていくのかが分かりにくいとの声もあり、広聴後のプロセスや結果の見える化が課題として挙げられます。

今回のアンケート結果を踏まえ、今後は市民の多様な声をより幅広く、かつ効果的に聴き取るため、オンライン手法を含めた広聴活動の充実を図るとともに、対話の内容や成果が市民に伝わる仕組みづくりに取り組んでまいります。市民と行政が相互に理解を深めながら、ともにまちづくりを進めていけるよう、引き続き広聴活動の改善・充実に努めてまいります。

（秘書課）



©NPO 法人新居浜まちづくり隊